

心豊かでたくましく共に生きる子ども



ひらかた

1月号

令和7年1月8日
上尾市立平方小学校
校長 大野 和孝



ホームページ [上尾市 平方小学校](#) [検索](#) [QRコード](#)

～ 感 謝 ～

校長 大野 和孝

新年あけましておめでとうございます。

冬休みが終わり、子供たちの明るい笑顔とともに3学期が始まりました。朝の寒さを吹き飛ばす子供たちの元気な挨拶に心が温まります。毎朝登校を見守ってくださる方から「いつも子供たちの挨拶から元気をもらっています。」とお声がけいただきました。うれしい限りです。今年も「全ては子供たちのために」を年頭の思いとして全職員で「子供が目を輝かせ、生き生きとしている学校」になるよう取り組んでいきます。引き続き、保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



校舎から見える富士山

今年の十二支は巳です。「巳」は、脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから「再生」「復活」の象徴ともされています。十干と組み合わせた2025年の干支は、乙巳（きのと・み）です。「乙」は、困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表しているのだそうです。1年前の令和6年能登半島地震からの復興を心から願うとともに、学校においては、成功や失敗を繰り返しながら成長していく子供たちを支え、新たな学年に向かう準備を進めていきます。

さて、先月14日に、地域の方に集まっていただき校庭周りの雑木清掃を行いました。ひらまるンピック前の9月には90名近くの方に校庭の除草作業を行っていただきました。その他にも先月はPTAによる花の植え替え作業や大掃除のお手伝い、学習ボランティアなど、様々な場面でご協力いただきました。このように学校は当然のことながら職員だけでなく、保護者・地域の方によって支えられています。

私たちの生活も多くの人々の支えによって成り立っています。頭では分かっている、電子マネーが広がる社会において、普段の生活の中で人に支えられている実感が伴うことは少ないように思います。例えば給食。言うまでもなく給食は調理員だけの力で提供できるものではありません。献立を考える人、発注する人、配送する人、野菜を育てる人、などなど。人件費や食材費として語られた瞬間、様々な人々の思いやストーリーを感じづらくなっているようにも思います。

本校では、先月3日に下校ボランティアの方をお招きし、子供たちと一緒に給食を食べていただく機会を設けました。短い時間ではありましたが、子供たちは地域の方とのつながりを感じたことでしょう。また、今月24日から30日までを学校給食週間として設定し、給食委員が給食の歴史について放送したり、子供たちが調理員に手紙を書いたりする取組を行います。まずは、直接関わりのある方、支えてくれている方に感謝する気持ちを大切に育んでいきたいです。感謝する気持ちは、謙虚さや人の役に立ちたいと思う自己有用感につながります。また、社会が求めている共生する力や協働する力の素地になると考えます。

ある時、毎朝除草や樹木の剪定をしてくださる方にボランティアの動機を伺いました。「私が小学生の頃（平方小ではありません）よくしてくださった方がいたので、その恩返しと思っています。」とおっしゃっていました。

人とのつながりの中で、温かい心が伝わり合い、「乙」のごとくしなやかに成長する年であることを願います。